子どもたちの成長は、町を支える大きな未来となる―

現代の保育現場

全国的に待機児童の解消と保育士不足が大きな問題となっている現代社会。芝山町においても近年、人口、出生数、就学前児童数などが減少傾向にある反面、核家族化や共働き世帯の増加により保育所の利用を希望する家庭は増加しており、保育士不足が深刻な問題となっています。

近年の保育では、子どもや保護者に対する一般的な支援だけでなく、3歳未満児への健康・安全に関するよりきめ細かい対応、食育の推進、発達段階に応じた幼児教育の充実、新型コロナウイルス感染防止対策等の徹底など、保育所と保育士に対して求められる資質や専門性が多岐にわたります。

そのため、限られた職員数や環境の中で試行錯誤を繰り返しながら、さまざまな対応により子どもたちの成長を支援していかなければなりません。

芝山町の保育所

町内には保育所が3カ所あり、通常保育時間は午前8時30分～午後4時30分です。

※延長保育時間は午前7時～午後7時です。

〈第一保育所〉

現在入所児童数51人（1～5歳児で4クラス体制）、職員数13人

〈第二保育所〉

現在入所児童数54人（0～5歳児で5クラス体制）、職員数17人

〈第三保育所〉

現在入所児童数37人（1～5歳児で3クラス体制）、職員数11人

「先生のあたたかい手は落ち着くね」

「何気ないことこそ大切 人が支える保育の日常」

Interview

第三保育所　**髙橋 英子**（ひでこ） 所長

保育所での共通の想い

保育所は3カ所ありますが、基本的な考え方とさまざまな対応については、芝山町として分け隔てなくどこでも「同じ保育ができるように」という想いから、各保育所で共通意識を持っています。

もちろん、保育士も通っている子どもたちにもたくさんの違った個性があります。その部分は活かして、同じ方向を向きながら各保育所の「色」が出せればと思います。

また、子どもたちには、自立心や協同性、自然との関わり・生命の尊重などといった「小学生になるまでに育っていて欲しい10の項目」に沿った支援ができるように心掛けています。

各保育所内の情報共有とコミュニケーションも大切です。所長同士の連絡も密にしながら、保護者の皆さんへのお便りの内容は共通となるようにしています。さらに定期的な情報交換はもちろん、分からないことはすぐに聞く、何かあれば必ず助け合えるという体制を整えています。

特に気を付けていること

子ども一人一人の体調の変化には特に気を付けています。「○○くん、元気に遊んでいるように見えるけど何か気になるな」など、保育士による些細な気付きから体調不良や病気を早期発見できるように心掛けています。そのため、子どもたちの平熱や持病をしっかりと把握しておくことは重要なことです。

子どもたちの成長への想い

間近で感じる子どもたちの成長を保護者の皆さんと共有し、一緒に喜び合えることを大切にしていきたいです。また、可能性をたくさん秘めた一人一人の個性を尊重し、得意なことを伸ばして自信に繋げられるように支援していきたいと思います。

楽しい職場環境づくり

先生同士がいつでもどこでも「笑顔で挨拶」を大切にしています。また、どんなに些細なことでも「感謝の気持ち」を伝えるようにしています。報告・連絡・相談を徹底し、お互いの良いところを認め合いながら職員の信頼関係を高めています。

芝山町の魅力とは

自然に恵まれているため、どの保育所の子どもたちも季節ごとの自然に触れる機会がたくさんあります。新しい発見や感動、いろいろな体験をすることで育まれる好奇心と探求心。豊かな経験を友だちや先生と一緒に積み重ねると「自然」「命」の大切さの学びになります。

また、縦割りクラス（第三保育所は3・4・5歳児）があることで、上の子は下の子の面倒を見て手助けをし、下の子は上の子をお手本に見よう見まねで成長します。お互いが刺激を受けて、年齢に関係なく仲良く協同生活ができることは良いことだと思います。

「3・4・5歳児、みんな仲良く遊んでいるよ！」